

[病院局]

中央病院改築等事業

【平成27年度当初予算額 399,000千円】

中央病院の将来像



本県医療の中核拠点

- 新生児から高齢者まで、フルカバラーの救命救急
- 高い防災対応力を誇る災害医療の要
- 「志」と「臨床力」の高い医師を輩出する実践教育病院
- MZ(メデイカルゾーン)本部として、高度な医療を提供

平成27年度の取組み

外構工事等の整備に着手

○外構工事費等 【399,000千円】

→ 2箇年(H27～H28)で整備



MZ敷地の一体利用

- ・メデイカルストリート
- ・外来駐車場

アメニティの向上

- ・玄関キャノピー、屋根付歩道
- ・ミニ公園

災害対応力の向上

- ・トリアージエリア
- ・マンホールトイレ

基幹災害拠点病院としての機能を強化

- ・災害時情報共有システムの構築
 - 院内ネットワークを利用し、端末上で院内被害状況や患者状況の情報を一元的に把握
- ・病院版災害情報ホームページ
 - 患者受入の可否、被災者安否確認等の情報を、HPで迅速に発信
- ・災害時モニタリングシステムの設置
 - トリアージ等活動エリアにカメラを設置し、災害対策本部等でリアルタイムに状況を把握

担当：病院局経営企画課

現状の取組み

高度急性性期病院のブランド力の強化

- 研修医の増加
 - 初期研修医数 H23「5名」→ H26「22名」
- DPC II 群病院(大学病院本院に準ずる)の指定(H26.4～)
- 手術支援ロボット「ダヴィンチSi」の導入(H26.8)
 - H26手術実績(10月～12月)「10件」

取組みの結果

- 診療収益(1ヶ月平均)
 - H25「9.6億円」→ H26「10億円」

堅調に推移!

三好病院高層棟改築等事業

【平成27年度当初予算額 364,000千円】

三好病院の将来像

四国中央部の中核拠点



新高層棟
H26.8開院

- 救命救急、西の岩
- 放射線治療から緩和ケアまで、フルセットのがん医療を提供
- 公立3病院での連携を進め、地域完結型の医療体制の構築をリード

現状の取り組み

- 救急医療の充実(救命救急センター・ヘリポート)
→ ドクターヘリ受入・搬送件数(H26.12末)「16件」
- 地域医療支援病院の指定(H26.3)
- フルセットのがん治療体制
→ 新設された「地域がん診療病院」の早期指定を目指す
- 災害対応力の強化(免震構造、医療ガス設備等)
- 医療器械等の充実
(リニアック、CT、MRI等)



平成27年度の取り組み

改築事業の総仕上げへ

- ①外来駐車場等工事費等 【181,000千円】
・旧高層棟解体後の跡地を外来駐車場として整備
- ②低層棟機能整備工事費 【183,000千円】
・北側玄関の新設
・外来出入口に大型キャノピーの整備
・地域連携スペース来院者用にトイレを改修
・CS室の整備

災害への対応力の強化

- シームレスな救急医療体制の構築
→ 救急部門の資機材の整備 等
 - 津波被害時の沿岸部への「後方支援機能」の充実
- ①ER室(救命救急室)に、CS室(運航管理室)を整備
→ ドクターヘリ群のコントロールが可能に
- ②低層棟に、災害対策センター機能を整備
→ 発災時の本部対応機能をさらに強化



CS室

[病院局]

海部病院改築事業

【平成27年度当初予算額 2,565,000千円】

海部病院の将来像



**最前線の
先端災害医療拠点**

- 巨大地震を迎え撃つ前線基地
- 地域医療を担う総合診療医の育成道場

現状の取組み

- 海拔「約15.6m」の高台へ移転改築
→ 用地造成工事の実施
新病院本体工事に着手(免震構造、ツインヘリポート)
総合診療医育成のため、地域医療研究センターを整備

○事業費(継続費) 【60.5億円】

(年割額) 【H26】	【H27】	【H28】
353,000千円	2,565,000千円	3,132,000千円

○スケジュール

本体工事	H25	H26	H27	H28	平成27年度
立体駐車場整備				→	→
外構工事				→	→

平成27年度の取組み

本格的に新病院建築工事を推進

- 本体工事費等 【2,565,000千円】
うち、地域医療再生基金 約9.8億円
グリーンニューデール基金 67,500千円

災害への対応力の強化

- 高台への移転改築により、
→ 発災時には、災害対応にシームレスにシフト
ツインヘリポートによる大規模搬送が可能に

高台移転に加え

「牟岐バイパス」、「避難広場」、「日本赤十字社の備蓄庫」も整備 → 県南地域の新たな防災拠点づくりを目指す

災害医療連携検討ワーキンググループの推進

- 「県立3病院」、「鳴門病院」、「徳島赤十字病院」の災害担当者による検討チーム

顔の見える
関係づくりも!

- 情報共有と具体策の検討
①災害訓練の共同実施
→ H26実績 中央病院の災害訓練への共同参加
②災害用備蓄(食料・資機材)の共同調達
→ H26実績 備蓄食料の共同購入を実施

担当: 病院局経営企画課

新とくしまトレスフードプロジェクト推進事業

製造・加工・流通等の透明性を高め、食の信頼確保による高付加価値化

プロジェクトにおける3本の柱

【平成27年度当初予算額10,000千円】

- ① 届出対象の拡大
 - ◎ 「届出制度」要綱から「新条例」へ
「食品表示の適正化等に関する条例(仮称)」
- ② 認証制度の拡充
 - ・ 他品目への認証の拡大
- ③ HACCPの普及拡大
 - ・ 意欲ある食品加工業者に普及拡大（輸出促進）

本年の取組み

- ・ 食の安全安心対策統括本部の設置
- ・ 食品表示Gメンの増員
- ・ 食品事業者等届出制度の創設
- ・ 鳴門わかめ認証制度の創設

発 展

プロジェクトの主な取組み

制度の強化・定着

- ◎ 「食品表示専門アドバイザー(仮称)」の派遣
- ◎ 「トレスフード事業所認定制度」の創設
 - ・ まずは、飲食店事業者をモデルにスタート！
- ◎ 「トレスフード優秀事業所表彰制度」の創設

表 彰

監視機能の強化

- ◎ 「食品表示Gメン」の更なる増員と「タブレットPC」の活用
- ◎ 「消費生活コーデイネーター-食品表示特別研修」の開講

人材育成

- ◎ 「食の安全安心・学び推進プログラム」の創設
 - ・ 「食品表示責任者養成研修」の開催
 - ・ 「認証&HACCP導入担当者養成研修」の開催



情報発信

- ◎ 「とくしま食の安全安心情報ポータルサイト」の創設
- ◎ 事業者の取組支援
 - ・ トップセールスの実施
 - ・ 県アンテナショップや関連施設での取扱い支援



期待される効果

- 1 食の信頼確保により、「県産品の高付加価値化」と「国内及び海外における販路拡大」を推進
- 2 本県独自の先進的な取組みにより、「徳島」の信頼度・存在感・イメージをアップ



新

難病患者地域支援対策強化事業

制度改革により

- ・H27年1月～医療費助成制度の法制化
- ・難病医療拠点病院(総合型・領域型)の指定
- ・病態の解明や新薬開発など調査、研究の推進
- ・難病相談支援センターの充実強化

求められる機能

- ◆ 希少難病等専門性の高い医療の確保
- ◆ 複雑多様化するニーズにあわせた相談への対応
- ◆ 医療依存度の高い患者等の入院から在宅療養への移行支援

H27新たな取り組み

徳島大学病院に…

■ 難病総合アドバイザーを設置

- ・患者の生活状況調査等分析評価
- ・症例検討会を通じた医療相談のネットワーク化
- ・難病相談機関へのスーパーバイズ

徳島病院では…

- 在宅重症難病患者一時入院事業
(レスパイト入院)を実施

患者団体と…

- 徳島大学病院との連携による相談会の開催

【平成27年度当初予算額 16,389千円】



担当: 健康増進課

新 県民を守る危険ドラッグ規制・啓発強化事業

【平成27年度当初予算額 3,000千円】



本人の健康被害



交通事故等の二次的な被害



「脱法・合法」等と称して
若者を中心に乱用

危険ドラッグから県民の健康を守る&危険ドラッグの流通・乱用防止の推進



県民総ぐるみで危険ドラッグを許さない社会を実現！


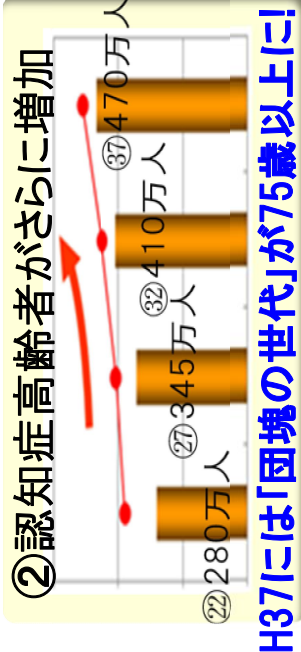
担当：薬務課

認知症総合支援事業

【平成27年度当初予算額 22,232千円】

現状

①認知症は「誰もかなりうる」
65歳以上の「4人に1人」!

③認知症高齢者が事件・事故に遭うケースが多発

H25 全国で行方不明者詐欺に遭う「1万人超」!(県内91人)



方針

生活習慣の改善
(認知症予防)

早期発見・早期治療
(症状の進行を遅らせる)

地域の見守り機能強化
(事件・事故に遭うリスクを軽減)

連携体制の充実 786千円


- 県認知症対策連携推進会議
- 市町村認知症連絡会議

普及啓発等の推進 1,632千円

- 普及啓発推進事業
- 介護資源活用型地域リ-タ-養成研修
- 認知症対策普及・啓発推進月間事業

医療体制の充実 13,722千円

- 認知症サポート医養成研修
- 認知症サポート医フォロ-アップ研修
- かかりつけ医認知症対応力向上研修
- 認知症疾患医療センター事業



拡充
家族支援の充実

相談・家族支援体制の充実 3,592千円

- 認知症コールセンター
- 県南部・西部への「巡回相談」の拡充
- 地域とつながる「認知症カフェ」の設置促進

拡充
地域における応援団の充実


地域の見守り機能強化 2,500千円

- 「広域連携体制」模擬訓練
- 優秀キャラバン・メイト表彰、協力事業所登録
- 見守りキーホルダー など

拡充
各種課題の調査・分析

調査研究の推進 1,000千円

- 認知症高齢者見守りセンタ-に「調査機能」を付加
- ・若年性認知症実態調査
- ・ヤングケアラー実態調査



認知症の方やそのご家族が住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができる社会の実現
担当:長寿保険課

新 ハナミズキ・西部サテライト地域支援事業

～ 徳島県発達障がい者総合支援センター 新たな拠点がオープン ～ 【平成27年度当初予算額 8,100千円】

社会参加・自立支援

福祉

- 相談(来所・巡回)
- 保護者への情報提供等
- 心理検査、発達検査
- 研修会、啓発活動



就労

- 就労に向けた生活改善、対人技能等の習得



西部テクノスクールとの連携

- ・作業実習の実施、資格取得のための講習を受講 → **就労促進**

地域の関係機関との連携

総合支援

西部サテライト

福祉・教育・医療・就労「四位一体」の総合支援を県西部で実施
～進化した徳島モデル～

早期発見・早期支援

教育

- 地域専門機関への専門的な助言



池田支援学校美馬分校との連携

- ・通常学級向け教員研修プログラムの開発等への支援
- **教員の指導力の向上**

医療

- 嘱託医による医療相談
- 地元医療機関との連携による医学的支援の充実



ハナミズキのノウハウ活用

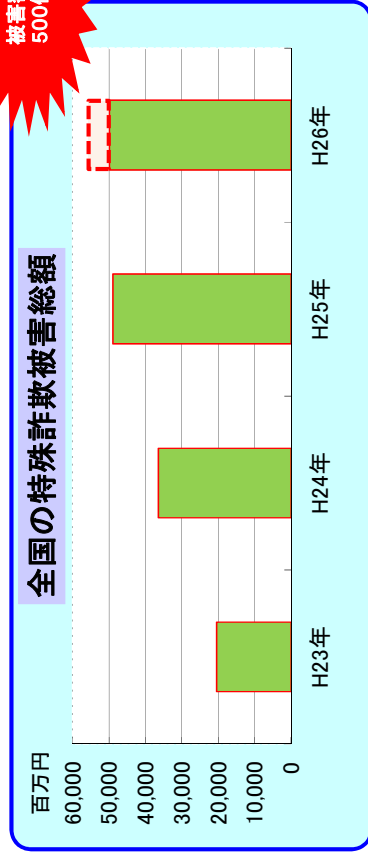


県全体の支援体制の充実・強化
発達障がいのある方が安心して暮らせる社会をめざして

担当：発達障がい者総合支援センター

新 **くらしを守る消費者パワーアップ事業**
 【平成27年度当初予算額13,500千円】

- **現状**
 - ・学校、学童保育等からの講座依頼の増
 - ・民生委員や老人クラブ研修等で注意喚起
 - ・産地偽装等、食の安全を脅かす事案の発生
- **課題**
 - ・地域で活動する人材の高齢化
 - ・社会参加の少ない方への情報不到達
 - ・食品等表示の消費者目線での監視強化



被害総額
500億円超

消費者教育の推進
 <若者の社会参画促進>

- ・ヤング消費者委員会の開催
- ・出前講座の充実
- ・教材の作成・普及

消費者教育の担い手の育成
 <民生委員等の活動支援強化>

- ・人材育成システムの構築
- ・相談員の資質向上
- ・食品表示監視機能強化

地域体制づくり
 <関係機関等との連携強化>

- ・見守り人材用引手の作成
- ・消費者相談体制の充実
- ・関係機関合同研修の開催

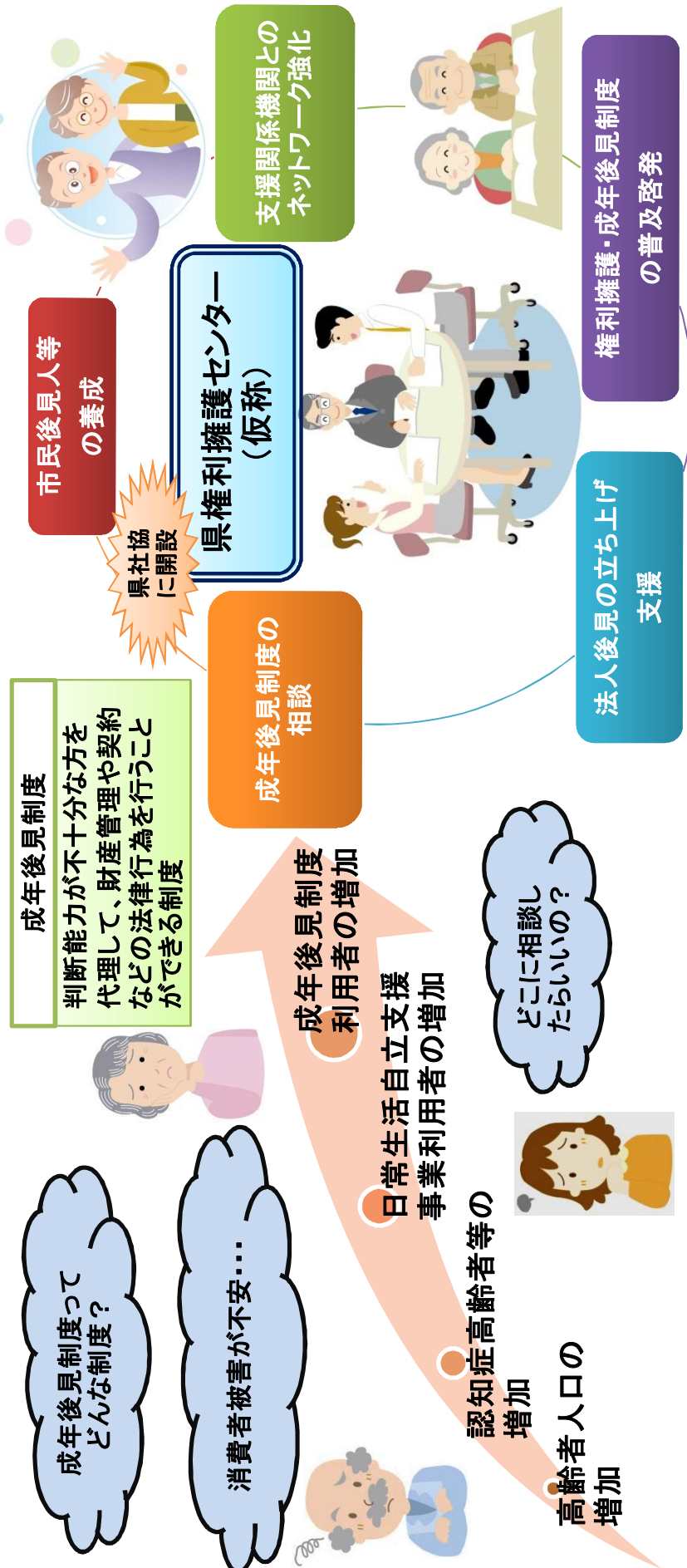


県民が暮らしやすい社会生活の実現

新 地域でまもる安心生活支援事業

【平成27年度当初予算額 7,000千円】

- 「認知症高齢者」の増加等により、日常生活における意思決定に支援が必要な方が増加
- 認知症や知的障がい、精神障がい等により判断能力が不十分な方の財産や生活を守るための法律行為を行う「成年後見制度」へのニーズの高まり
- 判断能力が不十分な方が住み慣れた地域で安心して暮らせるよう、成年後見制度に係る相談、普及啓発、市民後見人等の養成等を推進



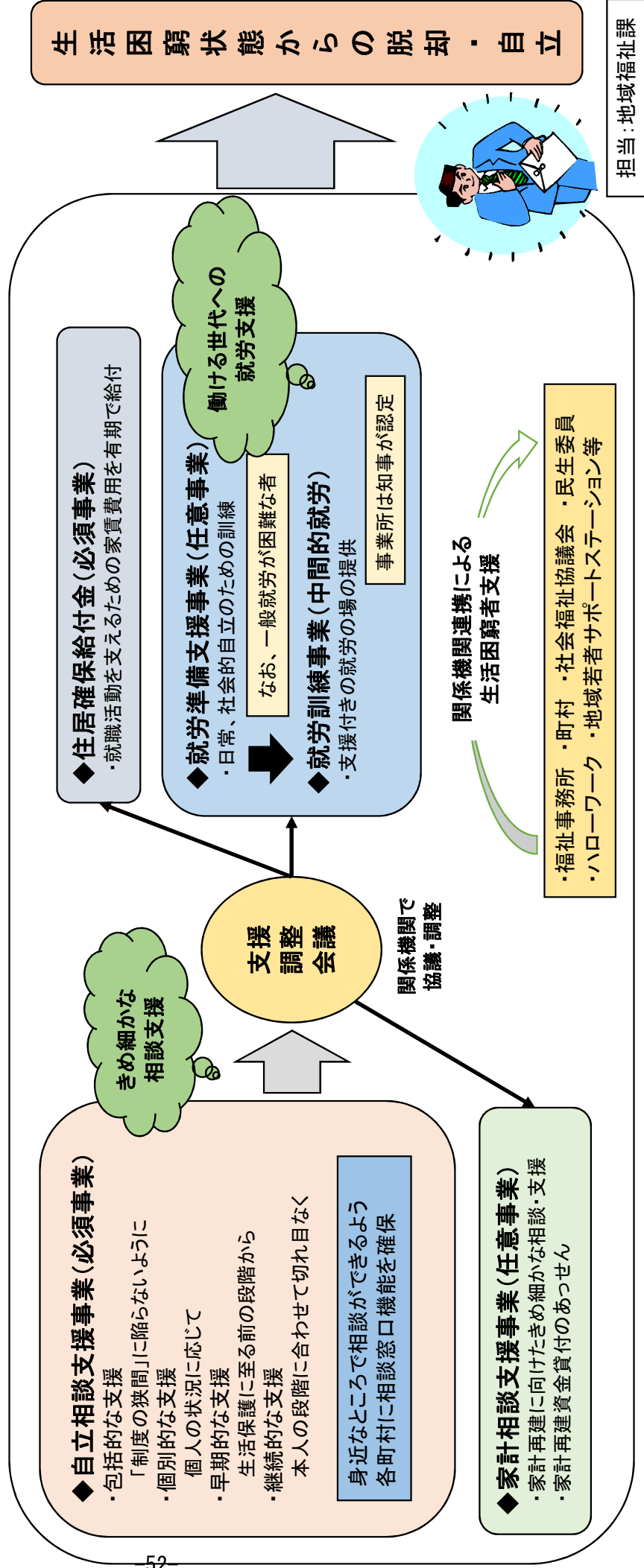
住み慣れた地域で安心して暮らせる社会の実現

担当：地域福祉課

新 生活困窮者自立促進支援事業

【平成27年度当初予算額 48,793千円】

- 生活保護受給者は216万人を超え過去最高水準にあり、とりわけ稼働年齢層と考えられる「その他の世帯」の割合が大きく増加
- 非正規労働者や年収200万円以下の給与所得者の増加と、生活困窮に至るリスクの高い層が増加
- 生活保護に至る前の自立支援策の強化を図るため、平成27年4月から「生活困窮者自立支援法」に基づき各種事業を展開（全ての福祉事務所設置自治体で実施、県内では8市及び16町村部においては県が実施主体）



～徳島ならではの「インクルーシブ教育」を推進～

【平成27年度当初予算額 14,000千円】

新 発達障がい等「地域のまなび支援」推進事業 【9,000千円】

- ・発達障がいのある児童生徒を含めた学校サポート体制の確立
- ・集団指導の「教材」、「指導プログラム」の活用に係る教員研修
- ・ジョブサポーターの配置による企業とのマッチング強化
- ・特別支援学校「ゆめチャレンジフェア」開催
- ・発達障がい者等雇用企業応援研修

専門性の向上

特別支援学校センター的機能の充実と教員の指導力向上

多様な学びの場の充実

幼稚園、小学校、中学校における学校ぐるみの指導体制の充実



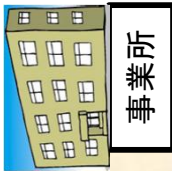
地域住民との連携

実習機会の充実によるコミュニケーション能力の向上



就労に向けた支援

社会的・職業的自立に向けた社会スキルの強化



事業所

西部テクスノスクールとの連携

職業教育の充実に関する連携

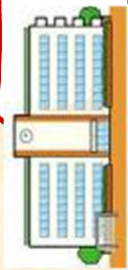


ハナミズキ・西部サテライトとの連携

早期発見・早期支援に関する連携と障がいに対する理解の促進

新 特別支援「西部モデル」構築事業 【5,000千円】

- ・集団指導の「教材」、「指導プログラム」の西部展開
- ・早期発見・早期支援の教員研修会開催
- ・地域住民の協力による授業支援・地域貢献
- ・西部テクスノスクールと連携した作業学習の種目開発
- ・特別支援学校「ゆめチャレンジフェア in WEST」開催



池田支援学校
(本校・美馬分校)

担当：特別支援教育課